

平成27年度 学校評価計画・総括表

五條市立西吉野小学校

教育目標		たくましい力 やさしい心					総合評価	
運営方針		子ども達が一日の学校生活を終えたとき、「学校に来てよかった」「今日は楽しかった」と言える毎日であってほしい。困難なことを乗り越えてやりとげたときには、ことさら大きな充実感が待っている。自ら行動する力、困難なことにもひるまず打ち克つ力を培い、協働して楽しい学級・学校づくりに励み、みんなと喜びを分かち合える学校づくりをめざす。					A	
平成27年度の成果と課題		○授業改善が進み、主体的な学習ができつつある。 ◇算数科における思考力・表現力の育成が必要。 ◇進んであいさつできるようにする。また時間を大切に育てる。 ○話し合う活動を通して、自治的・主体的な活動に取り組ませる。						
本年度の重点目標		具体的目標						
○主体的に活動する児童の育成。 ○たくましい「体力」づくりの推進。 ○地域と共にある学校づくりの推進。		○「算数科における思考力と表現力」の育成のために、指導法の創造と授業の充実を図る。 ○いろいろな運動や遊びを奨励する。 ○自分の仕事への責任感をもたせ、成就感や達成感を味わうことができるようにする。 ○「地域から学ぶ」「地域を学ぶ」教育活動を進め、地域社会との連携を図る。						
評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
学習指導	思考力・表現力の育成	算数科における思考力・表現力向上のための授業改善を図る。	B	A	A	研究授業等で統一した授業形態を確立するとともに、家庭学習の奨励等の取組を開始した。思考力の向上に向けた授業の改善をより一層進める必要がある。	算数科の研修成果を生かし、「深い学び、対話的な学び、主体的な学び」を重視した授業形態をより一層進めていく。また、行事内容の見直しを行う。家庭の協力を得て、学びのノートを定着させる。	・1年から6年まで一貫した授業パターン(授業の流れ)が確立されている。問題解決型の授業を積み重ねることで、コミュニケーション能力や思考力を高めることができると思うので、今後もさらに深めてほしい。また、家庭とも連携して「生活の中での経験を生かす」「学習したことを生活の中で生かす」といった『生活の中での学び』も大切にしたい。
	主体的な学び	児童による話し合い活動と実践を通して、自治的・主体的な態度を育てる。	A			高学年を中心とした児童が縦割り班での活動や行事の運営に携わることで、自治的な態度が育った。一方で特別活動の授業時数が多い。		
人権教育	組織的な指導	児童一人一人の人権が尊重される学校づくり・学級づくりを学校全体で進める。	A	A	A	人権集会、縦割り班の活動は、人権意識を高める機会となっている。特に、縦割り班の活動を通して、児童の絆を深めることに役立っている。	人権文化のより一層の定着を図るため、縦割り班の活動を充実させる。	『生活の中での学び』も大切にしたい。
生徒指導	基本的な生活習慣の定着	あいさつ・礼儀・時間励行などの態度を高め規範意識の向上に努める。	B	A	A	授業の始め等に、けじめのある号令を行うことができ、また、時間を守ったりする態度も身につけてきている。気持ちの良い挨拶をする児童は少しずつ増えてきているが、まだ少ない。	あいさつや生活目標に関する課題について、子どもたちに課題を発見させ、目標達成に向けて具体策を出させるようにするとともに、学校生活における問題に対する課題解決能力を高める取り組みを行う。	・アットホーム的な雰囲気の中で、幼小中一貫した取組など西吉野ならではの活動を積極的に推進してほしい。少人数だからこそ個が生きて教育ができると思う。また、少人数だからできないのではなく、少人数であってもできる活動を工夫して取組を進めてほしい。それがまた、子どもの自信にもつながると思う。
		月ごとの生活目標の意識を高め、達成できるように取組を進める。	A			保健係が中心となり、毎日ハンカチ、つめ調べ等を継続した結果、ほとんどの児童が忘れることなくきちんと準備できるようになり、清潔な生活習慣が身につけてきた。		
	いじめ防止	いじめの根絶をめざし、いじめ防止、早期発見等の取組を行う。	A	A	A	QU検査の活用や日々の子ども達の観察から、児童の人間関係の変化に目を向け、早期に指導できるよう心がけた。		
体力向上	体力の向上	運動習慣を身に付けさせる。負荷の大きい運動を取り入れ、体力向上を図る。	A	A	A	「ドレミファ・ドン」などカッキータイムの工夫・充実を図り、体力向上に努めた。「外遊び、みんなでチャレンジ！」に取り組み、好記録をおさめた。	ボール投げ等の体力上の課題を解決するため、外部支援員による実技指導を行う。	・小中連携した人権教育等を進め、いじめ等がなく、学校へ行くのが楽しいと思える学校づくりをお願いする。
地域連携	幼小中連携	園児・低学年児童の交流を進める。高学年児童と生徒の交流を深化させる。	B	A	A	幼稚園と合同での運動会、中学校への部活動体験など様々な場面で交流することができた。文化祭の見学に参加し、幼稚園児が一日入学で小学校との交流を実施している。	中学校との合同研修は今後もさらに進めていく。授業を見合うだけでなく、授業の支援についても連携する。	・運動会や集会活動など、子どもたちの主体的な姿が見られてよかった。行事に追われないうちに気づけながら、児童生徒の主体性を生かした取組を続けてほしい。 ・地域教材を活用したふるさと学習の充実により、これまで知らなかったふるさとのよさを改めて感じることができた。今後も積極的に進めてほしい。
		中学校との合同研修や授業等の支援など教員の連携を進める。	A			3つの専門部会に分かれての交流を行い、幼小中の課題が明確になり、話し合いが深まった。また、お互いの授業を見ることによって、指導方法の理解が深まった。		
	地域活用	地域教材を積極的に活用するとともに、地域の人々とのふれあいを図る。	A	A	A	総合的な学習の時間を活用し、「パトリ」について調べ、学習した内容を劇で発表したり、冊子にまとめた。あとの里資料館の方との連携を積極的に行った。		

A:十分である B:ほぼ十分である C:あまり十分でない D:改善を要する